

本證寺本 聖徳太子絵伝

9幅 ● 鎌倉時代後期 (13C終~14C初)



聖徳太子と聖徳太子絵伝

聖徳太子 (574-622) は、用明天皇と穴穂部間人皇女の長男として生まれました。22歳のとき、叔母である推古天皇が即位すると、そのももで、聖徳太子は皇太子となり、天皇の政治を代行する摂政となります。聖徳太子は、仏教の理想を重んじ、「十七条憲法」を作って、仏教の理想のもとに天皇を中心とする国家を作りあげることに力を尽くしました。

仏教の祖師である釈迦をモデルに、聖徳太子の生涯は、神秘と奇蹟に彩られ語り継がれます。その伝記は、絵に描かれて、聖徳太子絵伝と呼ばれるようになります。

奈良時代、聖徳太子が創建した四天王寺 (大阪) に、聖徳太子絵伝を描くギャラリーが誕生し、「絵堂」と呼ばれました。これをもとに、平安時代には法隆寺 (奈良) にも絵殿が建てられ、その建物のなかに、絵伝は障子画として描かれました。これが現存最古の聖徳太子絵伝として、いま東京国立博物館に所蔵されています。

鎌倉時代になると、聖徳太子絵伝は持ち運びのできる大画面の掛軸画となって、広く流布します。それらは、聖徳太子をお祀りする各地の太子堂に掲げられ、絵解きされました。

中世の掛軸の聖徳太子絵伝は、50セットを超えて現存しています。四天王寺では、聖徳太子絵伝を絵解きするための台本も作られ、「正法輪蔵」という書物が残っています。

富山県にある井波別院瑞泉寺太子堂で毎年夏に開催される「太子伝会」では、その伝統を今に見ることができます。

本證寺と聖徳太子絵伝

本證寺は、愛知県安城市にあり、親鸞聖人 (1131-1262) を祖師とする「浄土真宗」に所属する寺院です。浄土真宗は、「一向宗」ともよばれます。15世紀から16世紀にかけて、「一向宗」の人々が団結し、將軍徳川家康に対抗する「一向一揆」とよばれる反乱が起こったとき、本證寺はこの地方の拠点となったことでも有名です。

本證寺は、鎌倉時代後期 (12世紀終~13世紀初) に、親鸞聖人の弟子と伝えられている慶円という念仏聖により開かれました。その太子堂に、聖徳太子を本尊として、聖徳太子絵伝9幅、善光寺如来絵伝5幅、法然上人絵伝7幅が伝えられました。太子堂は残っていませんが、これらの絵伝は最大級の大作でありまた優れた傑作として、日本国の重要文化財に指定されています。

この聖徳太子絵伝9幅と同じ構図の作例が、アメリカのボストン美術館に5幅、日本の中之島香雪美術館に3幅に、別れて所蔵されています。残念ながら1軸 (第7幅目) が失われてしまっています。本證寺には、完全に9幅のこっている点も、大変貴重です。

本證寺の巨大な太子絵伝を眺めると、第5幅には、四天王寺の伽藍が大きく描かれ、絵伝全体の中心をなしていることがわかります。その中に、絵堂を思わせる細長いギャラリーが描かれています。これこそ、この絵伝が四天王寺絵堂の絵伝を受け継いだものであることを示す、シンボルです。

第5幅



67

第4幅



45

第3幅



3

第2幅



3

第1幅



123

本證寺本 善光寺如来絵伝

5幅 ● 鎌倉時代後期 (13C終~14C初)



善光寺如来と善光寺如来絵伝

善光寺如来絵伝の主役は、長野県にある善光寺の本尊「善光寺如来」です。

インドで生まれた仏教は、中国を経て、朝鮮半島から日本へと伝わり、聖徳太子によって、日本に弘まります。このような、仏教伝来の歴史のなかで、善光寺如来は、日本に伝わった最初の仏像として、平安時代から広く信仰されてきました。

そうした、善光寺如来への信仰の拠り所として、善光寺如来の由来 (神話) を、壮大な歴史ドラマとして描き上げた作品が、善光寺如来絵伝です。

むかし、インドの国で釈迦が教を説いていたころ、国中に重い病がはやり、月蓋長者の娘の如是姫も、病に倒れます。このとき、釈迦が招いたのが、阿弥陀如来です。阿弥陀如来は、すべての命あるものを救う誓いを立て、西方に極楽浄土を建立した慈悲深い仏です。「南無阿弥陀仏」と念ずれば、だれでも極楽浄土に生まれ変わることができると信じられています。阿弥陀如来の大いなる救済の光により、如是姫も、国中の人々も、重い病から救われました。

喜んだ月蓋長者の願いにより、阿弥陀如来の像がつけられます。阿弥陀如来は、インドから朝鮮半島、さらに聖徳太子のいる日本へと渡り、本田善光 (じつは月蓋長者の生まれ変わり) により、信州信濃の国 (長野県) へ運ばれて、善光寺が誕生し、善光寺如来と呼ばれました。善光の名前は、「ぜんこう」ともよみ、そこから善光寺と名付けられました。

善光寺如来像は、大いなる救済の光のなかに、阿弥陀如来を中心に、観音菩薩 (右)、勢至菩薩 (左) が並びたつのが特徴です。そのかたちから「一光三尊」と呼ばれました。

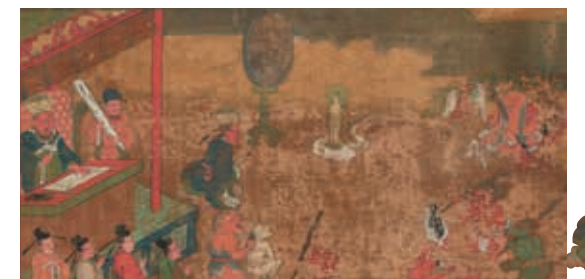
鎌倉時代になると、善光寺信仰の大ブームが起こります。將軍からも女性からも大変信仰を集め、全国に善光寺如来が祀られました。それとともに、善光寺如来絵伝も作られ、その多くが聖徳太子絵伝とセットで伝えています。

本證寺の善光寺如来絵伝には、第三幅目の聖徳太子が守屋を討つ場面を描き、聖徳太子と関わるエピソードがほじこめ、聖徳太子信仰と、善光寺如来信仰を結ぶ役割を示しているのも、興味深い特色のひとつです。



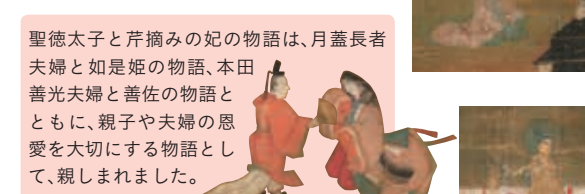
善光寺如来像

間魔王の前に、善光寺如来の使いである観音菩薩が現れ、善佐と女帝は、一緒に現世へ蘇った。



⑥ 聖徳太子と芹摘みの妃のラブストーリー

聖徳太子は、病に臥す両親のために、芹を摘む親孝行な娘と出会い、プロポーズする。



⑦ 善光寺の誕生

善光は国司となり、善光寺が建立された。善光寺の屋根の上に、釈迦が影向し、日本における善光寺信仰の始まりを祝福する。かつて難波の海で善光寺如来と語らった聖徳太子も、その創建を祈り、見守り、祝福している。

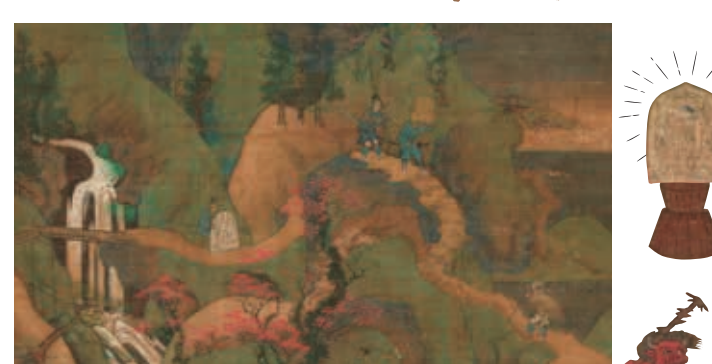
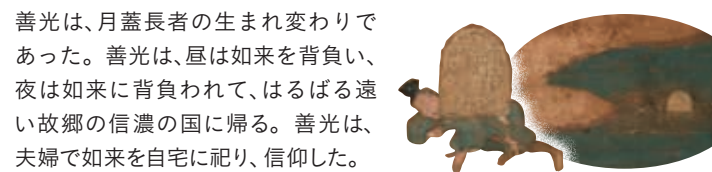


聖徳太子は悲しむ、仏教の守護神である四天王に祈り、物部守屋を討った。聖徳太子が、如来を迎えにくくと、如来は、いまはまだ難波の海に留まると告げる。



④ 信州信濃の国への旅路

信濃の国 (長野県) から本田善光が都へやってきた。善光が難波の海を通りかかると、如来が善光の背に飛び乗った。



⑤ 善光寺如来の奇蹟!

あるとき、本田善光夫婦の息子・善佐が急死する。善佐は善光寺如来に救われ蘇る途中、鬼に引き立てられていく皇極女帝と出会い、女帝の助命を願う。

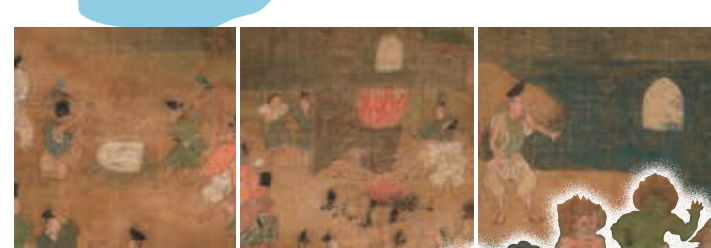
② 阿弥陀如来の分身、阿弥陀如来像が誕生!

月蓋は改心し、阿弥陀如来の像をつくり、人々を救いたいと、釈迦に願い出る。釈迦の弟子・目連は、海に住む竜王のもとへ行き、「蘭浮檀金」という聖なる黄金を持ち帰る。釈迦が見守る中、その黄金から像が造られ、阿弥陀如来の光を受けて、命をもった如来像が誕生した。



③ インドから、朝鮮半島を経て、日本へ

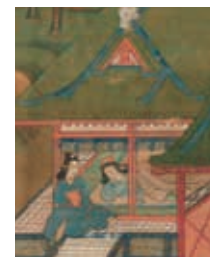
如来像は人々を救いたいと宣言し、インドから朝鮮半島を経て、日本へ渡ってくる。これが日本で最初の仏像となる。しかし、仏教を嫌う物部の一族は、如来を壊そうと、打ちたたき、火にくべ、難波の海に投げ捨てた。



善光寺如来絵伝

① 善光寺如来、あらわれる!

インドに裕福な月蓋長者がいた。月蓋のけちんぼな心が原因で、国中に重い病がはやる。愛娘・如是姫も病気にかかり、どんな名医も治せなかった。月蓋は、靈鷲山で説法する釈迦を訪ね、教を請う。釈迦の招きで、人間世界に阿弥陀如来が現れた。如来の放つ大いなる光明により、国中の病いが消え、如是姫も救われた。



如是姫



靈鷲山





17 50歳
太子、愛する妃とともに亡くなり、大阪にある科長の墓所に葬られた。

18 死後十年
太子の一族は、蘇我入鹿により滅ぼされ、その魂は法隆寺五重塔から空へ飛び立った。



15 42歳
前生に衡山で交わした約束通り、片岡山で飢人として生まれ変わった達磨と出会い、衣を与え、和歌を詠み交わす。

16 43歳
百済国からきた味摩之が伎楽を伝える。四天王寺舞楽の起源となる。



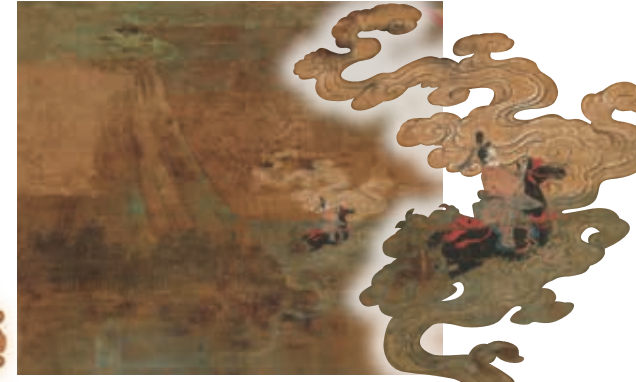
13 36歳
小野妹子を中国(隋)に派遣。



14 37歳
太子、斑鳩の宮の夢殿に籠もる。その魂は青龍車に乗り、中国の衡山へ赴いて、前生の法華経を持ち帰った。



11 27歳
太子、黒駒にのり、調子磨をしたがえて、空を飛び富士山に登る。



12 33歳
太子、十七条憲法を定める。
第一条 和を大切にしよう
第二条 (そのために) 仏と教えと僧侶を深く敬いなさい



9 19歳
太子は、元服の儀を行う。

10 22歳
推古天皇が即位。太子は皇太子となり、政治を補佐する摂政となる。太子、四天王寺を建立する。



7 14歳
仏教を嫌う物部守屋は、仏像や寺院を破壊し焼き払う。



8 16歳
太子は信貴山で四天王像を彫り、勝利を祈願。守屋との合戦に勝利する。



5 10歳
予言の通り、東方から蛮族が攻めてくるが、太子は平和におさめた。



6 11歳
王子たちと遊ぶなか、文武両道に優れた才能を発揮する。みんなの同時に話すことばを聞き分け、のちに豊聡耳皇子と呼ばれた。



聖徳太子絵伝

1 受胎告知
救世菩薩が金色の僧侶の姿で現れ、母の体内に宿る。

2 誕生
うまやど(馬小屋)の前で誕生。のちに「厩戸皇子」と呼ばれた。

3 2歳
2月15日の朝、太子は東にむかって進み出で、合掌し、南無仏と唱える。

4 9歳
火星が出現。太子は、未来を予言する。

